

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立日新小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	87.5%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	87.6%	83.1%
自分には、よいところがあると思う。	83.4%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	85.5%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.3%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	14.6%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	27.1%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	39.6%	27.4%
「30分より少ない」	6.3%	12.9%
「全くしない」	4.2%	5.7%

家庭学習の時間については、1時間以上と1時間未満の児童がそれぞれ半分程度という結果が出ています。全く家庭学習をしていない児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

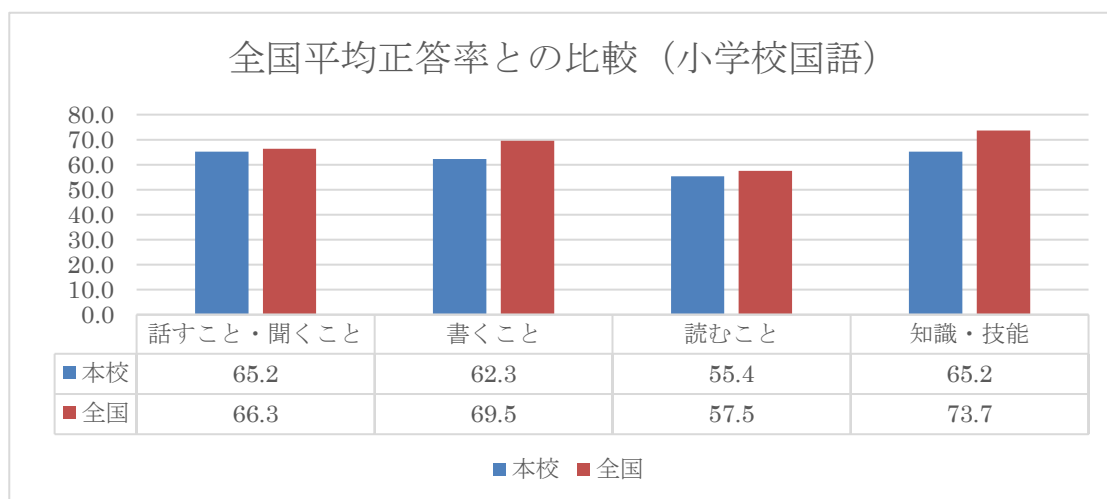
【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育てていきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である、自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育み、「自立」に向かうため、教育活動の多くの場面で役割や出番を設け、取組を励ましたり称賛したりします。
- 「ぽかぽかカード」の活動を中心に、自己有用感や自尊感情を高め、学習の下支えとします。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたはほしい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- ゲームや携帯電話の使用のルール等、家庭でのルールについてお子さんと話し合っ決めて、生活習慣の向上につながります。役割を与えて褒めることで、自己有用感が高まります。
- 家庭学習は学校の授業とつながっています。家庭学習が自分のための学習となるように意識し、計画的に取り組むことが大切です。学習の様子を見守っていただく中で、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。

2 国 語



(1) 結 果

全体では、全国平均を4.8ポイント下回っています。「書くこと」「知識・技能」が全国平均正答率を7ポイント以上下回っています。無解答率は、問題形式の「短答式」において、全国平均よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」設問において、全国平均正答率を11.1ポイント上回りました。最後の設は記述式の問題でしたが、無解答率も全国平均よりも約10ポイント低く、最後まで粘り強く取り組んだ児童が多かったです。

課題は、「知識及び技能」の正答率を上げることです。具体的には、「漢字を文の中で正しく使うこと」をみる設問において、正答率が全国平均を約9ポイント下回りました。また、全体の正答率が高い児童と低い児童のばらつきが大きく、個に応じた指導も必要です。主体的な学びの視点で授業改善を図り、日々の授業で力を付けることができるよう取り組んでいきます。

(3) 学力向上のための取り組み

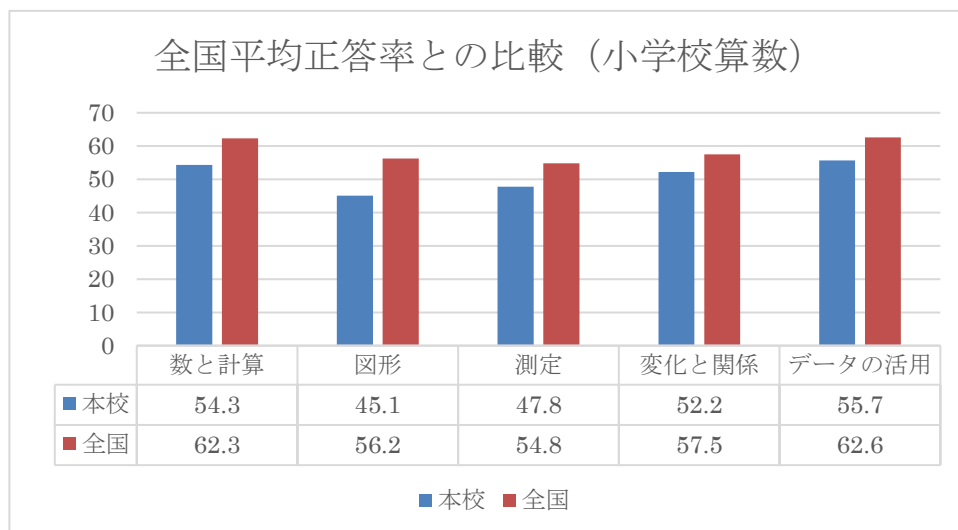
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合い、自分の考えをもちながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由（叙述や自己の内面、経験など）を明確にしながらかく機会を増やしたり、友達に話したりする機会を増やします。
- 日常的に漢字を用いる習慣を身に付けさせます。また、読書指導とあわせて、語彙力を増やします。
- 個に応じた指導を行い、全体の底上げを行います。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。読み飛ばすことなく、丁寧に音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解し、考えながら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。
- お子さんの日々の取組に興味をもち、共感したり、根拠を尋ねたりしながら交流しましよう。

3 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回り、全体では、8ポイント下回っています。無解答率は、全体的には全国平均と同程度です。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「変化と関係」の領域の、割合の意味を解釈し、「比べる量」が「もとになる量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っていました。最後の設問でしたが、無解答率も全国平均を下回り、国語同様に最後まで粘り強く取り組んだ児童が多かったです。

課題は、基礎・基本の定着です。観点別に全国平均と比べると、「知識・技能」の平均正答率の差が「思考・判断・表現」の平均正答率の差よりも大きく出ています。特に「数と計算」「図形」の領域において、四則演算や分数の計算、台形の特徴や角の大きさの理解を問う設問において、全国平均を10ポイント以上下回りました。解法に必要な数量を見いだしたり、答えの求め方や考えた理由を、式や言葉を用いて記述したりするには、「知識・技能」が必要となります。今後、四則演算の確認や図形の操作活動などを通して、式の意味や図形の性質を捉えることができるようにすることが重要であると考えます。また、国語同様、正答率の高い児童と低い児童のばらつきが大きく、個に応じた指導も必要です。

(3) 学力向上のための取り組み

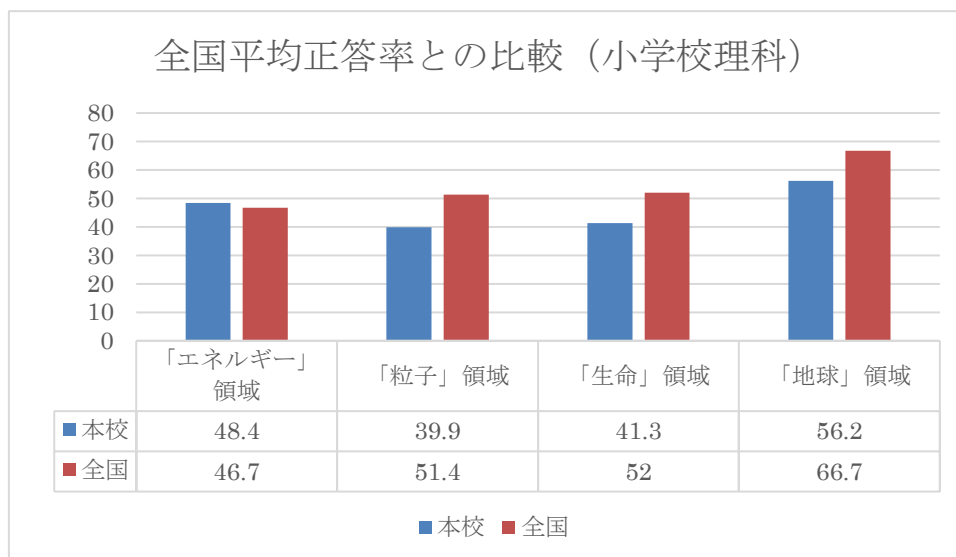
【学校では】

- 基本的な問題を繰り返し確認し、基礎的な力を高めます。
- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。
- 日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのノートやプリント等の宿題の様子、テストをご覧になって、お子さんの学習状況を知るとともに、取組状況や成長に目を向け、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

「エネルギー」領域は全国平均を上回りましたが、他の領域は下回りました。全体では、9.1ポイント下回っています。無解答率を見ると、問題形式の「記述式」において、全国平均よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」領域の問題の正答率が概ね全国平均を上回りました。特に電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識をみる問題の正答率が全国平均正答率を9ポイント上回っていました。電気の回路や電流について、体験を通した理解の定着が図られた結果だと捉えています。

課題は、「記述式」の問題です。実験の結果を基に結論を導いた理由を記述する問題や種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだして表現する問題において、正答率が全国平均を10ポイント以上下回り、無解答率も大きくなっています。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。また、全体的に正答率が低く、各領域の確認が必要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を3年生から行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。生活場面と結び付けながら、体験的、具体的に捉えられるよう、授業改善に努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。